

2015年9月21日

トヨタ車体、インドネシアで名古屋ドーム 30 個分の土地に 100 万本の植樹達成に向けた植樹式を開催

～マングローブの苗木で海岸の再生を目指す～

トヨタ車体株式会社（本社：愛知県刈谷市 取締役社長：岩瀬 隆広）は、2015年9月19日（土）、インドネシア共和国における子会社3社（*1）とともに、西ジャワ州ブカシ県の「トヨタ車体グループの森」でマングローブの植樹式を開催し、2011年より5ヶ年計画で進めている最終年の植樹を開始しました。

*1 スギティークリエーティブス（*2）

トヨタオートボデーケーエクスツルーション（*3）

レジンプラットニングテクノロジー（*4）

当社は、エビ養殖のために作られた人工池などにより破壊が進む約150ha（名古屋ドーム約30個分）の海岸の再生を行うため、公益社団法人 日本環境教育フォーラムのサポートを受けながら、2011年より毎年20万本ずつ、地元住民の方々とともに植樹をしてきました。今年20万本を植樹することで目標としている100万本を達成し、生き物が生息しやすい海岸への再生を図ります。また、地元住民への環境教育も継続実施し、地元住民が自立して森林を守り育てる基盤づくりも行っています。

植樹式には、ムアラ・ゲンボン郡知事代理のワフェウヰジャヤ氏をはじめとするインドネシア行政関係者、ならびに当社の石黒 明二取締役副社長、当社現地法人スタッフ、地元住民や小中高校生など約200名が参加しました。植樹式では、石黒 明二取締役副社長が「環境保全是トヨタ車体グループにとって重要な課題であり、豊かなマングローブ林づくりに貢献していきたい」と挨拶をしました。

当社は、2006年から本社のある愛知県をはじめ、工場や子会社が所在する三重県、鹿児島県で森林整備を推進し、海外においても2006年から5年間、インドネシア スカブミ県の焼畑により森林破壊が著しい約120haの土地に約11万本のマホガニーやアボカドなどの苗木を植え、熱帯雨林再生をめざす活動を推進してきました。今後も社会から信頼される企業をめざし、地球環境保全と地元住民との絆づくりに取り組んでまいります。



記念植樹の様子



おかげさまで、会社創立70周年。みなさまに心から感謝。



【マングローブの成長】



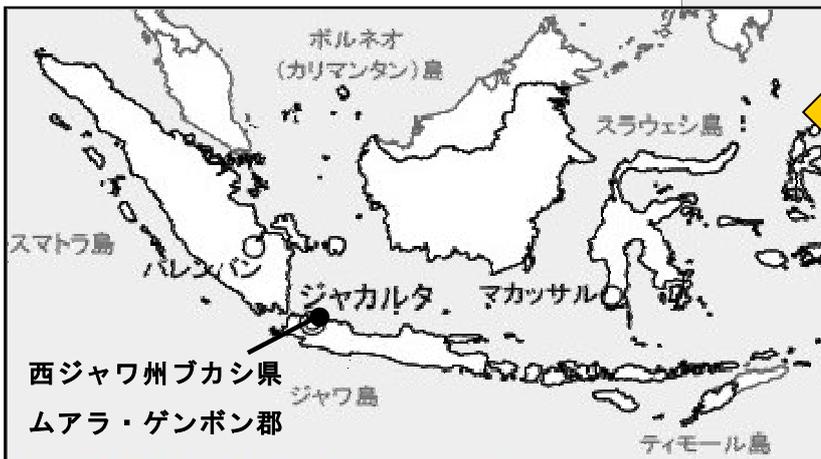
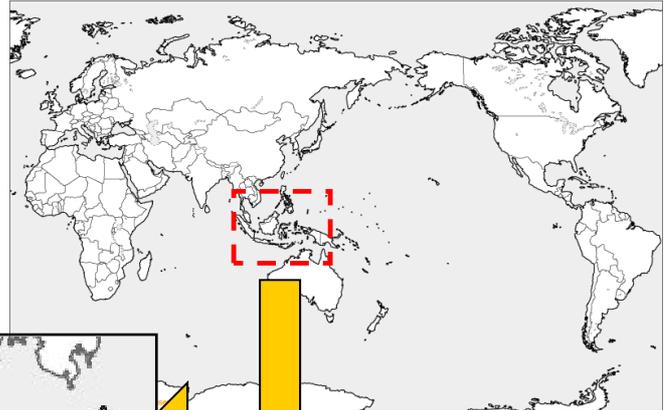
植樹当初



2011年に植樹したマングローブ

【植林活動場所】

・インドネシア共和国西ジャワ州ブカシ県



(* 2) PT. Sugity Creatives

所在地 : インドネシア共和国西ジャワ州ブカシ県MM2100 工業団地内
生産品目 : 自動車「NAVI」および樹脂部品

(* 3) PT. Toyota Auto Body-Tokai Extrusion

所在地 : インドネシア共和国西ジャワ州ブカシ県MM2100 工業団地内
生産品目 : ゴムおよび樹脂の押し出し成形部品

(* 4) PT. Resin Plating Technology

所在地 : インドネシア共和国西ジャワ州ブカシ県MM2100 工業団地内
生産品目 : 自動車用樹脂めっき部品および樹脂部品



おかげさまで、会社創立70周年。みなさまに心から感謝。

